

第 1 問

$f(x) = x^2 + x - k$  とおく.

$k > 2$  より, 2 次方程式  $f(x) = 0$  の判別式  $1 + 4k$  の値は正であり, この方程式は異なる 2 つの実数解  $\alpha, \beta$  をもつ.

$\alpha, \beta$  は,

$$\alpha + \beta = -1, \quad \alpha\beta = -k \quad \dots\dots ①$$

を満たす.

一方, 再び  $k > 2$  により,

$$f(1) = 2 - k \neq 0$$

であるから,  $\alpha \neq 1, \beta \neq 1$  である.

このとき,  $F(\alpha, \beta) = \frac{\alpha^3}{1-\beta} + \frac{\beta^3}{1-\alpha}$  とおくと,

$$F(\alpha, \beta) = \frac{-\alpha^4 + \alpha^3 - \beta^4 + \beta^3}{(1-\alpha)(1-\beta)} \quad \dots\dots ②$$

である.

$-x^4 + x^3$  を  $f(x)$  で割ると,

$$\text{商は } -x^2 + 2x - k - 2, \quad \text{余りは } (3k+2)x - k(k+2)$$

となるから,

$$-x^4 + x^3 = f(x)(-x^2 + 2x - k - 2) + (3k+2)x - k(k+2)$$

が成り立つ.

$\alpha, \beta$  は  $f(x) = 0$  の 2 解であるから,  $f(\alpha) = f(\beta) = 0$  であることに注意すると,

$$\begin{aligned} -\alpha^4 + \alpha^3 &= (3k+2)\alpha - k(k+2), \\ -\beta^4 + \beta^3 &= (3k+2)\beta - k(k+2) \end{aligned}$$

となる.

よって, ②より,

$$\begin{aligned} F(\alpha, \beta) &= \frac{(3k+2)(\alpha + \beta) - 2k(k+2)}{\alpha\beta - (\alpha + \beta) + 1} \\ &= \frac{(3k+2) \cdot (-1) - 2k(k+2)}{-k - (-1) + 1} \quad \text{(①より)} \\ &= \frac{2k^2 + 7k + 2}{k - 2} \quad \dots\dots ③ \end{aligned}$$

となる.

第1問 (つづき)

$k-2=t$ とおくと、 $k>2$ より、 $t$ は $t>0$ の範囲を動き、 $k=t+2$ であるから、③より

$$\begin{aligned} F(\alpha, \beta) &= \frac{2(t+2)^2 + 7(t+2) + 2}{t} \\ &= \frac{2t^2 + 15t + 24}{t} \\ &= 2t + \frac{24}{t} + 15 \\ &\geq 2\sqrt{2t \cdot \frac{24}{t}} + 15 && \text{(相加平均と相乗平均の大小関係を用いた)} \\ &= 15 + 8\sqrt{3} \end{aligned}$$

が成り立つ。ここで、等号については

$$2t = \frac{24}{t} \text{ かつ } t > 0, \text{ すなわち } t = 2\sqrt{3} \text{ のとき}$$

成立するから、求める  $F(\alpha, \beta)$  の最小値は

$$15 + 8\sqrt{3} \quad \dots\dots \text{(答)}$$

である。

【注】

$F(\alpha, \beta)$  を  $k$  で表す部分については、 $\alpha$  と  $\beta$  の対称式に注目して、

$$\begin{aligned} \alpha^3 + \beta^3 &= (\alpha + \beta)^3 - 3\alpha\beta(\alpha + \beta) = (-1)^3 - 3 \cdot (-k) \cdot (-1), \\ \alpha^4 + \beta^4 &= (\alpha^2 + \beta^2)^2 - 2\alpha^2\beta^2 \\ &= \{(\alpha + \beta)^2 - 2\alpha\beta\}^2 - 2(\alpha\beta)^2 \\ &= \{(-1)^2 - 2(-k)\}^2 - 2(-k)^2 \\ &= 2k^2 + 4k + 1 \end{aligned}$$

を用いることにより、

$$\begin{aligned} \text{(②の分子)} &= -(\alpha^4 + \beta^4) + \alpha^3 + \beta^3 \\ &= -(2k^2 + 4k + 1) - 3k - 1 \\ &= -2k^2 - 7k - 2 \end{aligned}$$

とすることもできる。

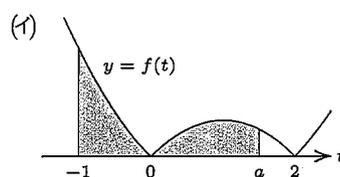
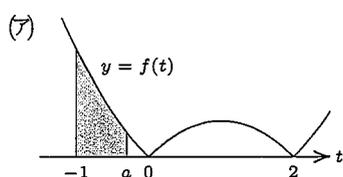
第2問

$P(t, 3t^2 - 4t)$  と  $l: 2x - y = 0$  の距離  $f(t)$  は,

$$f(t) = \frac{|2t - (3t^2 - 4t)|}{\sqrt{2^2 + (-1)^2}} = \frac{1}{\sqrt{5}} |-3t^2 + 6t|.$$

(1)

$$f(t) = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{5}} (-3t^2 + 6t) & (0 \leq t \leq 2), \\ \frac{1}{\sqrt{5}} (3t^2 - 6t) & (t \leq 0, 2 \leq t). \end{cases}$$



(ア)  $-1 \leq a \leq 0$  のとき.

$$\begin{aligned} g(a) &= \int_{-1}^a \frac{1}{\sqrt{5}} (3t^2 - 6t) dt \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}} [t^3 - 3t^2]_{-1}^a \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}} (a^3 - 3a^2 + 4). \end{aligned}$$

(イ)  $0 \leq a \leq 2$  のとき.

$$\begin{aligned} g(a) &= \int_{-1}^0 \frac{1}{\sqrt{5}} (3t^2 - 6t) dt + \int_0^a \frac{1}{\sqrt{5}} (-3t^2 + 6t) dt \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}} [t^3 - 3t^2]_{-1}^0 + \frac{1}{\sqrt{5}} [-t^3 + 3t^2]_0^a \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}} (-a^3 + 3a^2 + 4). \end{aligned}$$

以上から,

$$g(a) = \begin{cases} \frac{1}{\sqrt{5}} (a^3 - 3a^2 + 4) & (-1 \leq a \leq 0), \\ \frac{1}{\sqrt{5}} (-a^3 + 3a^2 + 4) & (0 \leq a \leq 2). \end{cases} \quad \dots(\text{答})$$

(2)  $h(a) = g(a) - f(a)$  とおく.

$0 \leq a \leq 2$  のとき,

$$g(a) = \frac{1}{\sqrt{5}} (-a^3 + 3a^2 + 4), \quad f(a) = \frac{1}{\sqrt{5}} (-3a^2 + 6a).$$

第2問 (つづき)

$$\begin{aligned} h(a) &= \frac{1}{\sqrt{5}}(-a^3 + 3a^2 + 4) - \frac{1}{\sqrt{5}}(-3a^2 + 6a) \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}}(-a^3 + 6a^2 - 6a + 4). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} h'(a) &= \frac{1}{\sqrt{5}}(-3a^2 + 12a - 6) \\ &= -\frac{3}{\sqrt{5}}(a^2 - 4a + 2) \\ &= -\frac{3}{\sqrt{5}}\{a - (2 - \sqrt{2})\}\{a - (2 + \sqrt{2})\}. \end{aligned}$$

$0 \leq a \leq 2$  における  $h(a)$  の増減は、次のようになる。

$a$	0	...	$2 - \sqrt{2}$	...	2
$h'(a)$		-	0	+	
$h(a)$		↘		↗	

$$h(0) = \frac{4}{\sqrt{5}}, \quad h(2) = \frac{8}{\sqrt{5}} \quad \text{より, } h(0) < h(2)$$

であるから、 $a = 2$  で最大となる。

また、 $a = 2 - \sqrt{2}$  で最小となり、

$$h(a) = \frac{1}{\sqrt{5}}\{(a^2 - 4a + 2)(-a + 2) + 4a\}$$

と表せるから、

$$h(2 - \sqrt{2}) = \frac{1}{\sqrt{5}}\{4(2 - \sqrt{2})\} = \frac{4(2 - \sqrt{2})}{\sqrt{5}}.$$

以上から、

$$\text{最大値: } \frac{8}{\sqrt{5}}, \quad \text{最小値: } \frac{4(2 - \sqrt{2})}{\sqrt{5}}. \quad \dots(\text{答})$$

第3問

【解答1】 (12個の玉すべてを区別して考えた場合)

黒玉を  $B_1, B_2, B_3$ , 赤玉を  $R_1, R_2, R_3, R_4$ , 白玉を  $W_1, W_2, W_3, W_4, W_5$  のように 12 個の玉をすべて区別すると, これら 12 個の玉を横一列に並べる方法は

$$12! \text{ (通り)}$$

あり, これらは同様に確からしい.

(1) どの赤玉も隣り合わないような 12 個の並べ方は,

$$\wedge \bigcirc \wedge \bigcirc \wedge$$

のように, 8カ所の「 $\bigcirc$ 」に  $B_1, B_2, B_3, W_1, W_2, W_3, W_4, W_5$  を並べ, 9カ所の「 $\wedge$ 」から4カ所を選んで  $R_1, R_2, R_3, R_4$  を並べる方法の数だけあるから,

$$8! \times {}_9P_4 \text{ (通り)}$$

ある.

よって, どの赤玉も隣り合わない確率  $p$  は,

$$p = \frac{8! \times {}_9P_4}{12!} = \frac{9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6}{12 \cdot 11 \cdot 10 \cdot 9} = \frac{14}{55} \quad \dots \text{(答)}$$

である.

(2) どの赤玉も隣り合わず, かつ, どの黒玉も隣り合わないような 12 個の並べ方の総数を  $a$  とすると, 求める条件付き確率  $q$  は

$$q = \frac{a}{8! \times {}_9P_4} \quad \dots \text{①}$$

と表せる.

そこでまず, どの赤玉も隣り合わず, かつ, 少なくとも 2 個の黒玉が隣り合うような 12 個の並べ方の総数  $b$  を求める.  $a = 8! \times {}_9P_4 - b$  である.

隣り合った 2 個の黒玉を  $X$  と表し, 隣り合った 3 個の黒玉を  $Y$  と表すと,  $X$  と黒玉 1 個と赤玉 4 個と白玉 5 個の計 11 個をどの赤玉も隣り合わないよう並べる方法の数は, (1) と同様に考えると

$$\underbrace{{}_3P_2}_{X \text{ の決め方}} \times 7! \times {}_8P_4 \text{ (通り)} \quad \dots \text{②}$$

あり,  $Y$  と赤玉 4 個と白玉 5 個の計 10 個をどの赤玉も隣り合わないよう並べる方法の数は, (1) と同様に考えると

$$\underbrace{3!}_{Y \text{ の決め方}} \times 6! \times {}_7P_4 \text{ (通り)} \quad \dots \text{③}$$

あるので, どの赤玉も隣り合わず, かつ, 少なくとも 2 個の黒玉が隣り合うような 12 個の並べ方の総数  $b$  は, ②の中に重複して数えている③を除くことで,

$$b = {}_3P_2 \times 7! \times {}_8P_4 - 3! \times 6! \times {}_7P_4 = 6 \times 6! \times {}_7P_3 \times 52 \quad \dots \text{④}$$

と計算できる.

第3問 (つづき1)

したがって、 $a = 8! \times {}_9P_4 - b$  および④を①に代入すると、

$$q = \frac{8! \times {}_9P_4 - b}{8! \times {}_9P_4} = 1 - \frac{6 \times 6! \times {}_7P_3 \times 52}{8! \times {}_9P_4} = 1 - \frac{65}{168} = \frac{103}{168} \quad \dots (\text{答})$$

が得られる。

【解答2】 (同じ色の玉を区別しないで考えた場合)

黒玉をB, 赤玉をR, 白玉をWで表す。B, B, B, R, R, R, R, W, W, W, W, Wの12個を横一列に並べる方法は

$$\frac{12!}{3!4!5!} = 27720 \text{ (通り)}$$

あり、これらは同様に確からしい。

(1) どのRも隣り合わないような12個の並べ方は、

$$\wedge \circ \wedge \circ \wedge \circ \wedge \circ \wedge \circ \wedge \circ \wedge \circ \wedge$$

のように、8カ所の「○」にB, B, B, W, W, W, W, Wを並べ、9カ所の「∧」から4カ所を選んでR, R, R, Rを並べる方法の数だけあるから、

$$\frac{8!}{3!5!} \times {}_9C_4 = 7056 \text{ (通り)}$$

ある。

よって、どのRも隣り合わない確率  $p$  は、

$$p = \frac{7056}{27720} = \frac{14}{55} \quad \dots (\text{答})$$

である。

(2) どのRも隣り合わず、かつ、どのBも隣り合わないような12個の並べ方の総数を  $a$  とすると、求める条件付き確率  $q$  は

$$q = \frac{a}{7056} \quad \dots \textcircled{1}$$

と表せる。

そこでまず、どのRも隣り合わず、かつ、少なくとも2個のBが隣り合うような12個の並べ方の総数  $b$  を求める。 $a = 7056 - b$  である。

隣り合った2個のBをBB = Xと表し、隣り合った3個のBをBBB = Yと表すと、B, X, R, R, R, R, W, W, W, W, Wの11個をどのRも隣り合わないよう並べる方法の数は、(1)と同様に考えると

$$\frac{7!}{1!1!5!} \times {}_8C_4 = 2940 \text{ (通り)} \quad \dots \textcircled{2}$$

あり、Y, R, R, R, R, W, W, W, W, Wの10個をどのRも隣り合わないよう並べる方法の数は、(1)と同様に考えると

$$\frac{6!}{1!5!} \times {}_7C_4 = 210 \text{ (通り)} \quad \dots \textcircled{3}$$

第3問 (つづき2)

あるので、どのRも隣り合わず、かつ、少なくとも2個のBが隣り合うような12個の並べ方の総数  $b$  は、②の中に重複して数えている③を除くことで、

$$b = 2940 - 210 = 2730 \quad \dots ④$$

と計算できる。

したがって、 $a = 7056 - b$  および④を①に代入すると、

$$q = \frac{7056 - b}{7056} = 1 - \frac{2730}{7056} = 1 - \frac{65}{168} = \frac{103}{168} \quad \dots (\text{答})$$

が得られる。

((2) の  $a$  を求める部分の別解)

まず、白玉5個を横一列に並べる方法は、1通り

・黒玉を1個ずつ分けて入れる場合、その入れ方は、 ${}_6C_3$ 通り

その後、赤玉4個を入れる方法は、 ${}_9C_4$ 通り

・黒玉を2個と1個に分けて入れる場合、その入れ方は、 ${}_6P_2$ 通り

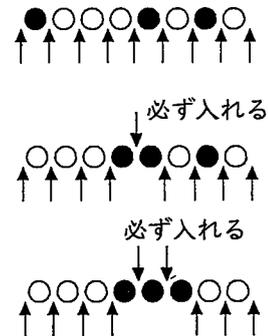
その後、赤玉4個を入れる方法は、 $1 \cdot {}_8C_3$ 通り

・黒玉3個を1箇所に入れる場合、その入れ方は、 ${}_6C_1$ 通り

その後、赤玉4個を入れる方法は、 $1 \cdot 1 \cdot {}_7C_2$ 通り

よって、

$$a = 1 \cdot {}_6C_3 \cdot {}_9C_4 + {}_6P_2 \cdot 1 \cdot {}_8C_3 + {}_6C_1 \cdot 1 \cdot 1 \cdot {}_7C_2 = 4326$$



((2) の  $a$  を求める部分の別解終り)

第 4 問

(1)  $AC=BC=x$  とおくと、三角形  $ABC$  で余弦定理より、

$$1^2 = x^2 + x^2 - 2 \cdot x \cdot x \cdot \cos \angle ACB$$

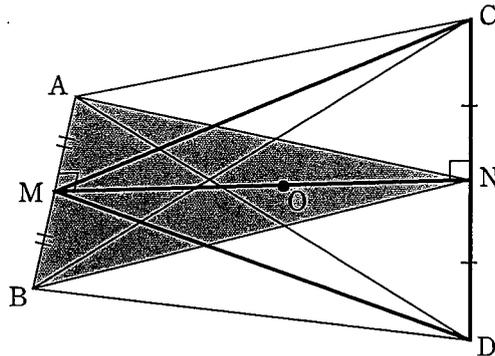
$$1 = 2x^2 - 2x^2 \cdot \frac{4}{5} \quad x^2 = \frac{5}{2}$$

$$x > 0 \text{ より, } x = \sqrt{\frac{5}{2}}$$

よって、

$$\triangle ABC = \frac{1}{2} AC \cdot BC \cdot \sin \angle ACB = \frac{1}{2} x^2 \sqrt{1 - \left(\frac{4}{5}\right)^2} = \frac{3}{4} \quad \dots (\text{答})$$

(2)



(1) と同様にして、 $AD=BD = \sqrt{\frac{5}{2}}$  より、 $\triangle ABC \cong \triangle ABD$  であり、ともに二等辺三角形である。

よって、 $AB$  の中点を  $M$ 、 $CD$  の中点を  $N$  とすると、四面体  $ABCD$  は面  $ABN$ 、 $CDM$  に関して対称であり、球面の中心を  $O$  とすると、対称性から  $O$  は線分  $MN$  上にある。

$$CM = \frac{2\triangle ABC}{AB} = \frac{3}{2}$$

一方、三角形  $OAB$  は 1 辺の長さが 1 の正三角形より、 $OM = \frac{\sqrt{3}}{2}$

よって、 $ON = t$  とおき、直角三角形  $CMN$ 、 $CON$  に注目して、 $CN^2$  を 2 通りに表すと、

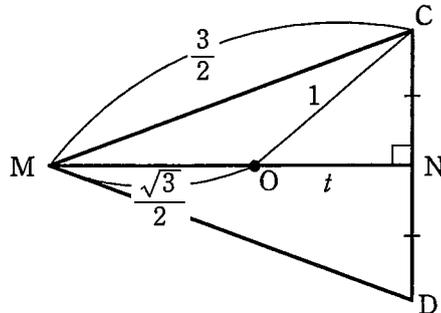
$$\left(\frac{3}{2}\right)^2 - \left(t + \frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 = 1^2 - t^2$$

$$\frac{1}{2} = \sqrt{3}t$$

$$t = \frac{1}{2\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{3}}{6}$$

であるから、

$$MN = \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{\sqrt{3}}{6} = \frac{2\sqrt{3}}{3}$$



第 4 問 (つづき 1)

よって,

$$CD = 2CN = 2\sqrt{1^2 - \left(\frac{\sqrt{3}}{6}\right)^2} = \frac{\sqrt{11}}{\sqrt{3}}$$

したがって, 求める体積  $V$  は,

$$V = \frac{1}{3} \cdot \triangle ABN \cdot CD = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot \frac{2\sqrt{3}}{3} \cdot \frac{\sqrt{11}}{\sqrt{3}} = \frac{\sqrt{11}}{9} \quad \dots (\text{答})$$

【(2)の参考1】

四面体  $ABCD$  を三角形  $ABC$  を底面と見たときの高さ  $DH$  を求める.

対称面  $CDM$  に注目して,  $\angle CMO = \theta$  とおき, 三角形  $CMO$  に余弦定理を用いると,

$$\cos \theta = \frac{\left(\frac{3}{2}\right)^2 + \left(\frac{\sqrt{3}}{2}\right)^2 - 1^2}{2 \cdot \frac{3}{2} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2}} = \frac{4}{3\sqrt{3}}$$

$$\sin \theta = \sqrt{1 - \left(\frac{4}{3\sqrt{3}}\right)^2} = \frac{\sqrt{11}}{3\sqrt{3}}$$

三角形  $CMD$  は,  $CM = DM = \frac{3}{2}$  の二等辺三角形だから,

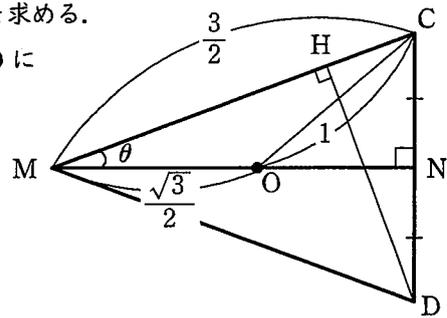
$$\sin \angle DMH = \sin 2\theta = 2\sin \theta \cos \theta = 2 \cdot \frac{4}{3\sqrt{3}} \cdot \frac{\sqrt{11}}{3\sqrt{3}} = \frac{8\sqrt{11}}{27}$$

よって,

$$DH = DM \sin \angle DMH = \frac{3}{2} \cdot \frac{8\sqrt{11}}{27} = \frac{4\sqrt{11}}{9}$$

したがって, 求める体積  $V$  は,

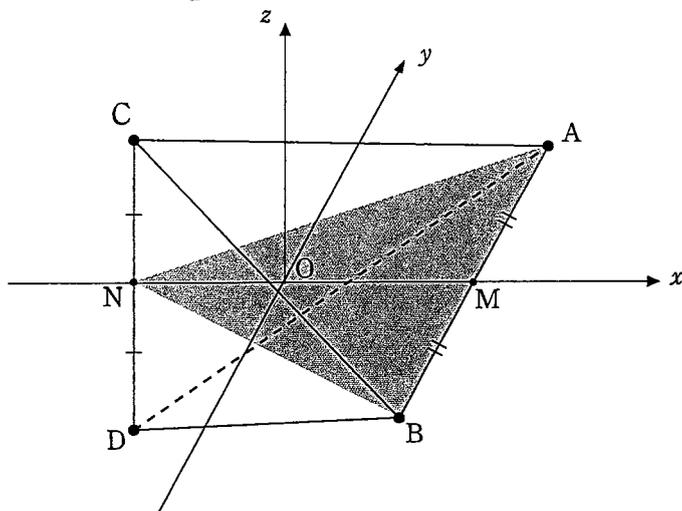
$$V = \frac{1}{3} \cdot \triangle ABC \cdot DH = \frac{1}{3} \cdot \frac{3}{4} \cdot \frac{4\sqrt{11}}{9} = \frac{\sqrt{11}}{9}$$



第 4 問 (つづき 2)

【(2) の参考 2】

対称面に注目し、 $OM = \frac{\sqrt{3}}{2}$  を求めた後、次のように座標軸を設定する。



対称性から、

$$A\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2}, 0\right), B\left(\frac{\sqrt{3}}{2}, -\frac{1}{2}, 0\right), C(p, 0, q), D(p, 0, -q) \quad (q > 0)$$

と表せる。 $\vec{CA} \cdot \vec{CB}$  を 2 通りに計算すると、

$$\vec{CA} \cdot \vec{CB} = |\vec{CA}| |\vec{CB}| \cos \angle ACB = \sqrt{\frac{5}{2}} \sqrt{\frac{5}{2}} \cdot \frac{4}{5} = 2$$

$$\vec{CA} \cdot \vec{CB} = \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - p, \frac{1}{2}, -q\right) \cdot \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - p, -\frac{1}{2}, -q\right) = \left(\frac{\sqrt{3}}{2} - p\right)^2 - \frac{1}{4} + q^2$$

より、

$$\left(\frac{\sqrt{3}}{2} - p\right)^2 - \frac{1}{4} + q^2 = 2$$

$$\left(\frac{\sqrt{3}}{2} - p\right)^2 + q^2 = \frac{9}{4} \quad \dots \textcircled{1}$$

また、 $C(p, 0, q)$  は  $O$  を中心とする半径 1 の球面： $x^2 + y^2 + z^2 = 1$  上であるから、

$$p^2 + q^2 = 1 \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\textcircled{1}\textcircled{2} \text{より、} p = -\frac{\sqrt{3}}{6}, q = \frac{\sqrt{33}}{6} \quad (q > 0 \text{ より})$$

が得られる。これを用いて四面体 ABCD の体積を求めるのもよい。